

政治的リテラシーを涵養する社会科学習

－第5学年「ハッ場ダム」実践からの考察－

お茶の水女子大学附属小学校

岩 坂 尚 史

- I 研究の目的
- II 研究の方法
 - 1 学習材としての「ハッ場ダム」
 - (1) 「ハッ場ダム」の概要
 - (2) ハッ場ダム建設の是非に関わる多様な観点について
 - 2 バランスアプローチ
- III 実践からの考察
- IV 考察
 - 1 合意形成をめぐって
 - (1) 合意に向けて考えを提案している姿
 - (2) 合意形成過程そのものを楽しむ姿
 - (3) 合意を中断させる姿－非－合意について
 - 2 授業で取り上げるべき観点について
 - 3 論争的問題の時事性について
 - 4 バランスアプローチを再考する
- V 今後に向けて

I 研究の目的

現代社会には価値観の多様さが原因で解決できない問題が増えてきている。他者の異質性を尊重しながら責任ある行動をとることのできる力を身につけてほしいという願いから、本校社会部は、政治的リテラシーの涵養を研究テーマに掲げている。時事的な社会事象について他者との差異や葛藤を感じる問題（論争的問題）に出あわせ、よりよい社会づくりに関心をもたせることを念頭に置いている。

イギリスのシティズンシップ教育の中心となったバーナード・クリックは、『クリック・レポート』で、「政治文化の変革を担う積極的な市民の育成こそ、シティズンシップ教育の中心に位置づけるべきである。そして、シティズンシップを構成する三つの要素として「社会的道徳的責任」「共同体への参加」「政治的リテラシー」である。」とし、政治的判断力や批判能力を中心とする「政治的リテラシー」を最も重視している。本校社会部でも、2012年度から「政治的リテラシー」の涵養を研究テーマとし、お茶の水女子大学附属小学校版「政治的リテラシー」を作成した。以下がその表である。

| お茶の水女子大学附属小学校社会部が考える「政治的リテラシー」 |
|---|
| i 社会的事象や時事問題の対立点、論点や、それらの背景となる基本的事実を理解する。 |
| ii 社会的事象や時事問題の対立点、論点について、多面的(他者の視点)な見方で考える。 |
| iii 読みとった情報・知識を、自分の主張の根拠にする。 |
| iv 様々な立場の人が幸せになれる条件を考えて決定する。 |

そこで、政治的リテラシーを涵養することを目標とした授業実践を試みた。論争的問題の対立点、論点、それらの背景となる基本的事実を理解する（政治的リテラシー i）ことを通して、立場が異なれば自分の利益と他者やみんなの利益は異なること（政治的リテラシー ii）、相手の立場や主張、根拠とすることを理解しよう（政治的リテラシー iii）とし、様々な立場の人が幸せになれる条件を考えて決定（政治的リテラシー iv）できるように構想した。

特に、政治的リテラシー iv の涵養を強く意識した。考えや価値が衝突した際にどう折り合いをつけて解決していくかということは、子どもたちが、社会の縮図とされる学校生活をよりよく送ったり、ひいては、民主主義社会を担っていく主権者としての重要な資質と考えている。この授業を通して、対話という作業を通じて得られた共通理解を判断基準として、対立状況を解消し、多様な価値観の存在を保障する民主主義的な合意形成過程を踏んでほしいと考えた。

II 研究の方法

1. 学習材としての「ハッ場ダム」

(1) 「ハッ場ダム」の概要

ハッ場ダムの建設が始まった理由として、「1947年のカスリーン台風により、利根川流域で大きな被害を受け、利根川上流にダムを築いて洪水調節を行い、下流部の洪水被害の軽減を図る為の治水事業の一環として、また、年々増え続ける首都圏の人口とそれに伴う水の使用量の増大をさせるため」とされている。

ハッ場ダムは、建設1952年に建設計画が出され、60年たった今でも完成しておらず、ダムの完成は2019年度としている。（授業当時はまだ、本体工事施工業者は決まっておらず、ようやく、2014年8月に決定した。また、建設予定地にあるJR吾妻線の線路付け替え後の線路撤去に着手しており、事実上の本体工事が行われたこととなっている。）2009年には一度建設中止となったように、ハッ場ダム建設の是非に関しては様々な立場がある。2013年の7月の参議院選挙の際に、ハッ場ダムの建設見直しを求める市民団体「ハッ場あしたの会」が12政党にハッ場ダムの賛否などを聞いたアンケートによると、自民党は「建設すべき」、生活党・共産党・社民党・緑の党は「建設すべきでない」、民主党は「もう一度検証すべき」

(公明党・みんなの党・みどりの風・日本維新の会などは回答なし) という結果が出ている。

(2) ハッ場ダム建設の是非に関わる多様な観点について

a 利水面

利根川流域では1972年から1994年までの間に、13回の水不足が起こっている。ハッ場ダムの総貯水量は1億トで、建設されると渇水発生状況が大幅に改善され、安定的な水の確保につながるとされる。しかし、その13回の水不足のうち、6回が取水制限10%で、生活にはほとんど影響はないという。また、東京都の年間配水量は、年々減少してきており、利根川流域の6都県の人口も今後、横ばいに推移すると予測されている。年々、漏水対策や節水のなど技術も進歩してきている。

b 森林の役割

森林は国土の保全や水資源の涵養などに重要な働きをしており、森林は降った雨水を蓄え、雨による洪水や土砂崩れを防ぐ役割も果たしている。森林はまさしく緑のダムとして、利水面や治水面で効果がある。しかし、100年に1度と言われるような大災害時には、森林自体が崩れてしまう可能性もある。また、群馬県の森林は群馬県全ダムの貯水量の約2倍の11.8億トの水を貯め、利根川水系へと地下で流れ込んでいるが、その様子は当然目には見えず、その水を直接取り出すことはできない。

c 治水面

ハッ場ダムが建設されると、吾妻川沿いの地域の約半分(約708km²)に降った雨を貯め、水を調節することが出来る。実際にハッ場ダムの降雨調整容量は6500万m³で、群馬県の上流の6つのダムの約六割に相当する洪水調整容量を備えており、大きな治水の効果が見込まれている。一方で、我が国では、自然災害を防止するために国や都道府県において、様々な対策や事業を進めている。ハッ場ダムの建設のきっかけとなったカスリーン台風では、浸水戸数303160戸、家屋全半壊31381戸、死者1100人と言った甚大な被害が起こった。近年の利根川水系の主な洪水被害に目を向けると、1991年8月の台風15号の被害があり、浸水戸数140戸で、家屋全半壊・死者ともに0となっている。これは、森林整備・河川改修・地下の大きな放水路の建設などが進んだ結果とも言える。しかし、河川改修や森林整備、ダム建設で被害が少なくなっているといっても、想定外の自然災害に対して、ハード面で防ぐには限界がある。2013年9月の台風18号では、京都府京北町では、平年の1カ月分を上回る雨が数時間で降り、河川が氾濫し、多くの被害を出した。ハード面に頼るのではなく、1人1人が災害意識をもち、早めに避難するなどの人的被害を減らすことが重要になってくることも重要である。

d 工事費用

ハッ場ダムは、公共事業費として当初の計画(1986年)では事業費が2110億円だったが、2004年の計画変更で4600億円に増額された。完成時期が2019年に延長されたことを受け、予算がどれだけふくらんでいくか見通しが立たないととらえることもできる。ダムの建設により、利水・治水で恩恵を受ける利根川下流都県は、ハッ場ダムの建設費用として、工事費の約6割出資している。しかし、建設中止にした場合は、その負担金を返却しなければならない可能性も出る。工事を継続するほうが安上がりなのではという考えや、一方、2013年度までに3827億円も投入されており、今まで使った税金が無駄になるという考えもある。

e 住民の気持ち

住民の方々の気持ちも考えなければならない。1952年にハッ場ダムの建設が長野原町長に通知された。当時の住民は大反対し、その後、進展がないので、一時期は立ち消えになったのではないかと思われたが、1960年から建設が再度表明された。それに対して、地域住民の方々は、私的な時間を割いて対策会議を開き反対運動を行っていたという。仮に、ダム建設賛成という声を上げれば、白い目で見られたということもあったようだ。住民の方々は、長い間苦しんだ結果、住民の生活が保障されればという条件のもと、1992年に反対運動の旗が降ろした。しかし、衆院選で民主党の大勝により、2009年に工事が凍結された。水没する川原湯温泉で旅館を営まれていた方は、「長い間反対運動の末、渋々ダム建設を受け容れ、ダムありきで生活設計をしていたのに、ダムが建設がとまってしまったら、この先の生活はどうなるのだろうか」と不安を抱いたという。

f 自然環境

子どもたちは、八ッ場ダム建設予定地を、林間学校の際に見学している。将来のダム湖にあたるところやダム湖にかかる橋水没地域を見学する中で、大自然の美しさを目の当たりにしている子もいた。「オオタカなどの希少生物やその他の動物はどうなるのか」「ダムができると、美しい自然がなくなる」という声も聞こえてきた。一方、工事にともない伐採された木は、材木として利用できない枝葉や根っこをチップにして、堆肥にする実験をしている。また、美しい溪谷を守るために、当初の予定ではその溪谷が半分失われていたが、ダムサイトを移して溪谷が4分の3を残るように計画が変更されたように、自然環境を守る取り組みもなされている。

2. バランスアプローチ

児童の実態として、一度自分の中で決めたことに対して、他者や反対の意見を聞き入れることができず、大きな声で主張する。さらに、自分たちで資料を集める時でも、なかなか違う立場の意見に目を向けることができず、自分の興味のある有利な資料しか集めることが出来ない。大きい声の男児の「八ッ場ダム建設賛成」の主張が、物静かな「八ッ場ダム建設」反対派の女児を圧倒している状況が起きている。前述のバーナード・クリックは、論争的な課題を扱う際のアプローチの方法のひとつとして、バランスアプローチ (Balanced approach) を挙げている。これは、議論が一方に流れがちな時に、教員があえて反対意見を言うというものである。学級の議論がより活発になるように、このアプローチを意識して授業に臨んでいく。

III 実践からの考察

(2013年9月20日～2013年11月8日、八ッ場ダム建設予定地見学2013年8月29日) 対象：第5学年

第1時 (9月20日)

○林間学校で八ッ場ダム建設予定地を見学したことを振り返った。(実際に見学したときには、八ッ場ダム工事事務所の方から、八ッ場ダムが建設された際の効果などのお話を伺った。ダム底になるところをバスで周回した。)

●ダムは水を蓄えてくれる。●多くの森林、家、田で作業している人が見えた。●森林や家は全て取り除かれる。●コンクリートの壁が作られていた。●ワイヤーで橋をつついていた。●柱がY字形をしている。

※現地での様子が子どもたちの頭に鮮明に残っていた。特に、柱やコンクリートの壁などの記述があるように、溪谷にダムができるという生々しさを感じ取っていた。

○八ッ場ダムは建設した方がよいのだろうか、建設すべきではないだろうか。

(○…賛成意見, □…反対意見)

○八ッ場ダムが出来ることを計画して今、水を使っているし人のためになるからしょうがないかもしれない。今年は水不足だから、やっぱりつくってほしい。

○水不足が将来なくなるし、ダムができることで何万人もの人が助かるから。(利水面)

■関東の人は水不足の時助かるがそのため、多くの自然はなくなるし、自分たちが思いを込めて作った田や畑がなくなる。

■ダム造りは私たちが生きていくのにはとても必要だけど、やっぱりあのきれいな景色や田、温泉などがなくなってしまう(自然環境)のもとてもイヤだ。

A児の振り返り

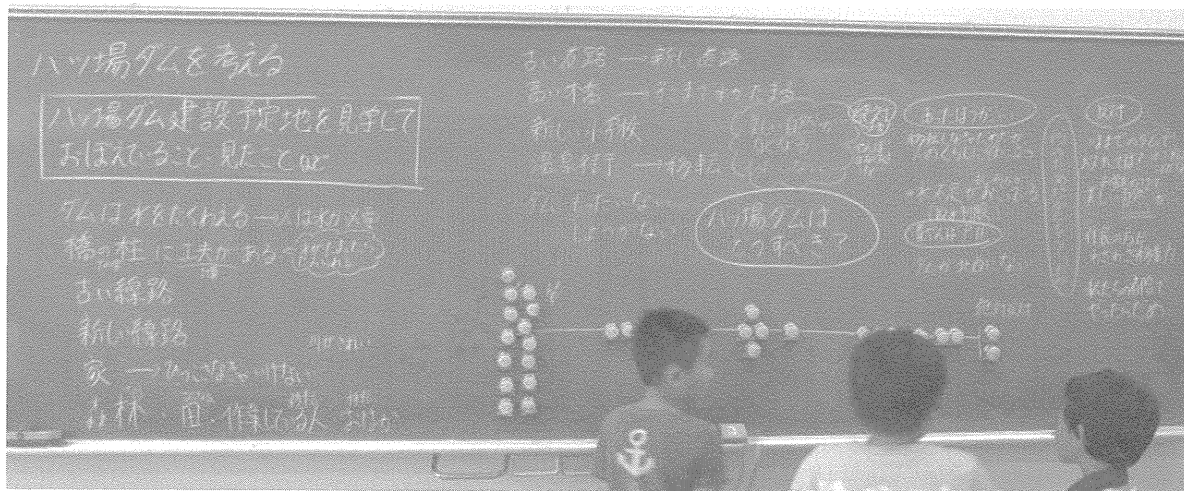
水害を受けたあとの復興は大変(治水面)。少しでも被害をなくしたい。自然がなくなるのはもったいないけれど、これが50年100年後も役立つのだったら作ってほしい。

〈表記〉

- …学習活動 ◇…資料
- …授業中に話題になったことなど
- ※…授業者による小括

S児の揺れ

○水不足が起こっている。○水不足に役立つ。○実際に水不足が起こっている。○ダムがない地域に造る
 ■住民の方が移動（住民の気持ち）することになる。■私たちの都合でやったらだめ。■人気、自然がないところでダム造りをすべき。
 →ダムを造っても、造らなくても、それぞれ欠点があるので、どちらにするか迷った。しかし、大切な自然を壊す（自然環境）のは絶対にもったいない。



※クラス全体の結果は賛成23, 反対9だった。全員の振り返りを見ると、「水不足がなくなる」「洪水がなくなる」「住民の気持ちはどうなる?」「美しい自然はどうなる?」といった疑問が書かれていた。また、「今まで大丈夫だったから必要ない」というコメントもあった。賛成の意見が多いのは、ハッ場ダムを見学したときにハッ場ダム工事事務所の方、いわゆるダム建設賛成の方の話を聞いていたからなのかもしれない。

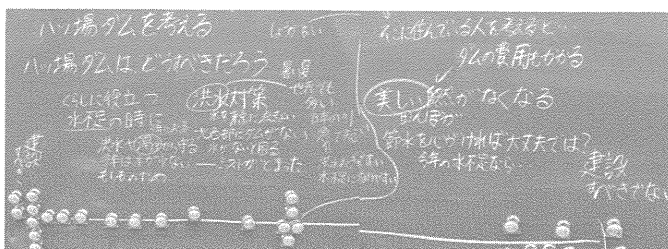
第2時（9月25日）

前回、議論の時間が十分に持てなかったので、賛成・反対の考えを整理しながら、議論の時間を設定した。

| 賛成 | 反対 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・くらしに役立つ ・日本の川は急で短く洪水がおきやすいので、洪水から守るため ・三年おきに起きる水不足に対応する ・今年水不足だった（茗荷谷駅のスモッグが止まった） | <ul style="list-style-type: none"> ・美しい自然がなくなる。 ・ダムの費用もかかる。 ・洪水対策は堤防でできる。 ・節水を心がければ大丈夫なのでは？ |

〈子どもたちの授業後の振り返りより〉

R児…建設した方がいいと思う。これから先何が起こるか分からないし、いつ洪水になるか水不足になるかも分からないし、今よりもっと水不足が深刻になるかもしれない。その時ダムがあれば、人々の命を守ることができる。ダムはないよりあった方がいい。自然は他にもある。



※子どもたちの発言を整理し、観点別に調べようと示唆した。授業や子どもたちの振り返りでも話題となっている「利水面」「治水面」「森林の役割」「住民の気持ち」「自然環境」「費用」である。今回は利水面での話が中心となったので、次時に利水面について考える。また、様々な観点を調べる時間も作っていきたい。

第2時プラスα（9月25日）（ホームルームの時間にPCルームで、八ッ場ダムについて調べる時間を取った。）

〈子どもたちの授業後の振り返りより〉

M児…ダムを造る時にこんな複雑な問題があるとは思わなかった。森林や土地も守りたいけど、ダムを造れば水不足は解消されるので、どっちも捨てがたいなあと思った。

第3時（9月26日）

○第2時プラスαでしらべたことを発表しあう。

○利水面から八ッ場ダムの建設の是非について考える①

◇過去の渇水状況を朝日新聞などから授業者がまとめたプリント

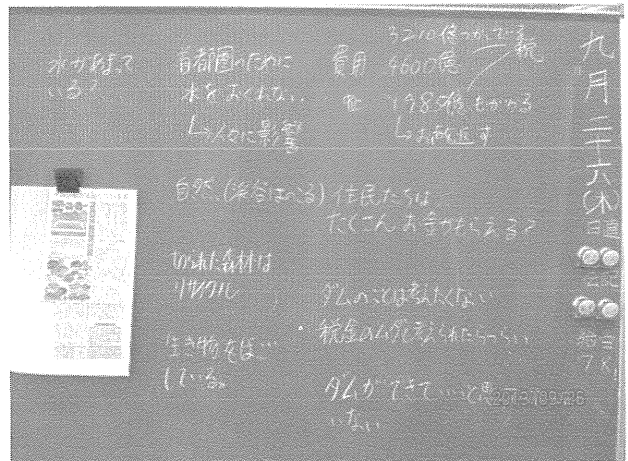
- 1994年は、四国や姫路で断水があったが、関東では断水は避けられたから、関東地方ではもう、ダムは必要ないのでは。
- 「1996年は、取水制限30%、給水制限15%であったが、都内8万6500戸で水の出が多少悪くなる」とあるので、関東地方にはそれほど影響はなかったと思う。

●万が一に備えて、ダムは必要だと思う。

〈子どもたちの授業後の振り返りより〉

R児…今年、私たちは水をたくさん飲んで暑い夏を過ごしましたが、過去にはそれ以上にもっとつらく暑い思いをした人がたくさんいた。だからダムはあった方がよい。

M児…お金の面では、造った方がいいかもしれないけど、もう造らなくても十分生活できるのかなと思った。



日本や関東地方では、過去にどのくらいの水不足（渇水）があったのだろうか

- ◎平成6年◎
 - 高松市…7月15日～ 午後4時から午後9時までの5時間給水◎
 - 松山市…8月 1日～ 午後1時から午後9時までの8時間◎
 - 8月22日～ 午後4時から午後9時までの5時間◎
 - 9月1日から工事用水がとまり、操業停止の工場もあった。◎
 - ※11月25日までの123日間断水が行われた◎
- 姫路市…9月10日～11月24日の71日間の夜間断水◎

関東地方◎
取水制限30%への強化は、1987年以降7年ぶり。1987年は強化直後にまとまった雨が降ったため、数日後には20%に緩和された。東京都は10%の給水制限を強化するが、断水は避けられる、とみている。◎

（朝日新聞平成6年8月16日）◎

- ☆ことば☆◎
 - 取水制限…川からとる水の量を減らす◎
 - 給水制限…家庭に送る水の量を減らす◎
- ◎平成8年◎
 - 8月23日から取水制限30%に引き上げ、給水制限を10%から15%に引き上げた。午後10時から朝5時まで給水所のポンプの水圧を下けているが、午後1時から午後5時の間も同様に減圧する。高台や給水所から遠い地域など、都内8万6500戸で水の出が多少悪くなるという。（朝日新聞平成8年8月24日）◎

※調べたことをもとに発言させていった。費用面、住民の気持ち、自然環境への配慮など、様々な観点がでてきたが、膨大な意見が出て、授業者が整理仕切れなかった。利水面の話にもなったので授業者が資料を提示した。

第4時（9月30日）

○調べたことを画用紙にまとめる。（前回は発表で終わってしまったので、自分が調べたことをしっかりまとめる時間とした。）

〈子どもたちが調べたこと（一例）〉

- ・八ッ場ダムができると洪水が起きにくくなったり、過去の取水制限をへらすことができる。
- ・緑のダムには限界がある。
- ・貴重な自然などがダムによって沈められる。
- ・伐採された木は、リサイクルに利用されたり、肥料にする取り組みなどがある。
- ・動物や生き物のすみかをつくりながら、周辺工事を行っている。など

〈子どもたちの授業後の振り返りより〉

R児…ダムを造っても自然を守ることはできる。自然のために何個も工夫をしている。それに自然だけでは水をためるのに不十分だということが明らかになっている。

M児…移転地での地すべりの危険があることや洪水はふせげないということや、首都圏の水あまりが起きているということがわかったので、今のところダムを建設する必要がないと思います。
した。)

※子どもたちが調べてきたことを見るとダム建設のメリットを調べてきた子どもたちだった。次時以降は、授業者が逆の資料を用意し、意見の均衡を保とうとした。また、S児は水力発電の観点、M児は地すべりの危険性から調べる子もいたが、授業者が調べたところによると、水力発電量が増えるという意見と、下流域での水量が落ち、結局は発電量があがらないという意見に分かれていた。観点が増えすぎると複雑なるので、今回は扱わないことにした。)

第5時（10月3日）

○利水面から八ッ場ダムの建設の是非について考える②

◇「ダムは利水面で必要」（子どもたちがまとめたもの）

◇東京都の配水量（要旨：年々配水量は減っている）

◇1都5県の人口の変化の予測（要旨：大きな増加はなく横ばい）

◇新聞記事（要旨：ゲリラ豪雨で水たまらず）

●昭和47年から平成16年に過去33年間で12回の水不足があった

●八ッ場ダムができると1都5県に配水される。

●もしものためにダムは必要だと思う。

●取水制限10%は生活に影響がなかった。

〈子どもたちの授業後の振り返りより〉

R児…ダムは必要です。過去にも最大取水制限30%が二回もある。

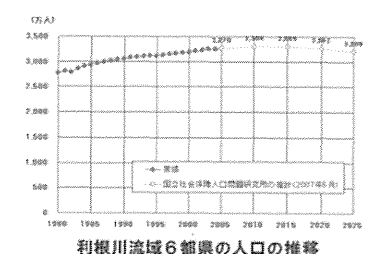
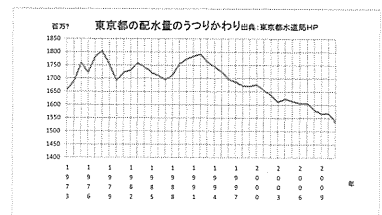
そんなことがあったら、夏暑いのに水が飲めなかったり、安全に料理を食べることができない。15%以上になるとだんだん生活に影響が出てくるから。とくに今年は梅雨明けが早かったため、全然ダムにたまらなかった。たとえ八ッ場ダムに入る水が少なからうと少しは生活の役に立つ。

M児…利水面ではそこまで困らないなあと思った。水不足の時の貯水されている水の量を計算してみても群馬県のところだけでも結構な量だったので、なくても生活できると思った。

利根川水系の取水の状況

| 項目 | 取水制限状況 | | | 最大取水制限率 |
|-----------|--------|------------|------|---------|
| | 取水制限期間 | 取水制限日数(日数) | | |
| 昭和47年 | 6/8 | 7/15 | 40 | 15% |
| 昭和48年 | 8/16 | 8/6 | 22 | 25% |
| 昭和49年 | 8/10 | 10/8 | 59 | 20% |
| 昭和50年 | 7/9 | 8/18 | 41 | 10% |
| 昭和51年 | 7/5 | 8/13 | 40 | 10% |
| 昭和57年 | 7/20 | 8/10 | 22 | 10% |
| 昭和62年 | 6/16 | 8/25 | 71 | 30% |
| 平成2年 | 7/23 | 9/5 | 45 | 20% |
| 平成6年 | 7/22 | 8/19 | 60 | 30% |
| 平成8年 | 1/12 | 3/27 | 76 | 10% |
| 平成10年 | 8/16 | 8/25 | 41 | 30% |
| 平成10年 | 2/1 | 3/25 | 53 | 10% |
| 平成13年 | 8/10 | 8/27 | 18 | 10% |
| 取水制限の平均日数 | | | 45.2 | |

※一隣線を含む



第6時（10月4日）

○利水面から八ッ場ダムの建設の是非について考える③

◇八ッ場ダムの貯水量の内訳（要旨：貯水量は1億m³だが、洪水期（夏）利水容量は2500万m³）

●夏にそこまで水が増えない。しかも、他のダムと同様に貯水率が高くないのでは。

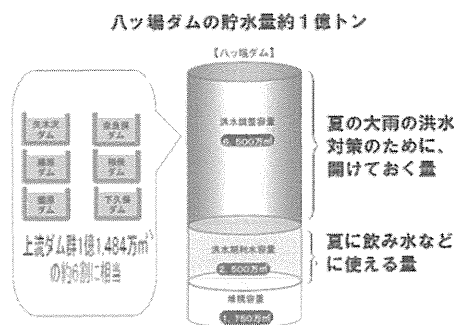
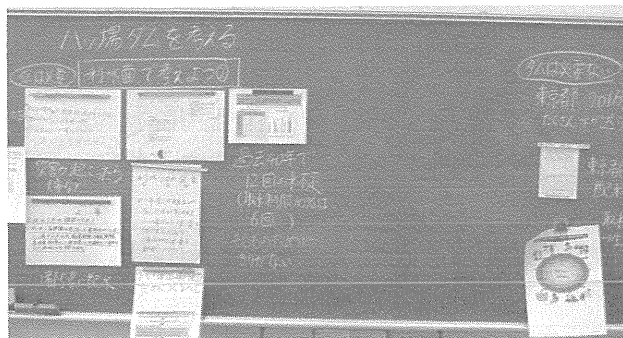
●東京都民1200万人が1人2m³節水できれば、八ッ場ダムの夏の水の量と変わらない。

●ダムができれば、使える水の量が少しでも増える。

〈子どもたちの授業後の振り返りより〉

R児…ハッ場ダムは必要だと思う。今、ハッ場ダムを造っておけば今使えなかったとしても将来取水制限が少なくすむかもしれない。

M児…利水面ではそこまで期待できないと思った。しかも節水だけでも十分影響があるんだなあと思った。



※子どもたちの振り返りをみると、思考にあまり変化がない。授業者の考えのもとたくさん資料を提示しているが、飽和しており、解釈できていないのではないだろうか。「利水面では、ハッ場ダムはそれほど必要ないかもしれないが、洪水調整容量が大きいので、洪水対策で必要だ」という子どもたちの声から、次時以降に治水面で考えていくことにする。

第7時 (10月4日)

○治水面からハッ場ダムの建設の是非について考える①

◇「治水面でダムが必要」(子どもたちが作成)

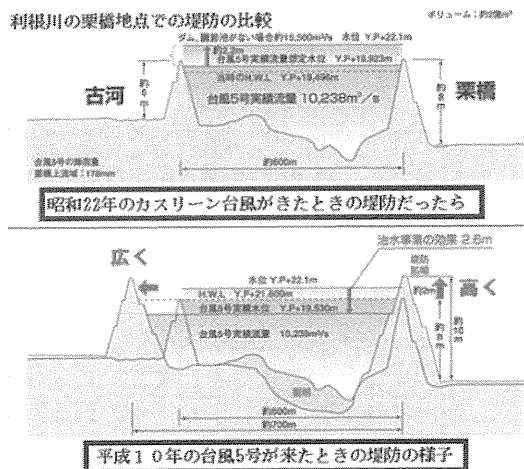
◇戦後の洪水被害・栗橋地点での過去の堤防の比較(要旨：洪水被害は減っており、堤防も高く広いものになっている)

- ハッ場ダムができれば、利根川上流で洪水を調節出来る効果ももっとも高い。
- 水をためる範囲がせまい。
- ダム以外でも洪水は防げる。

〈子どもたちの授業後の振り返りより〉

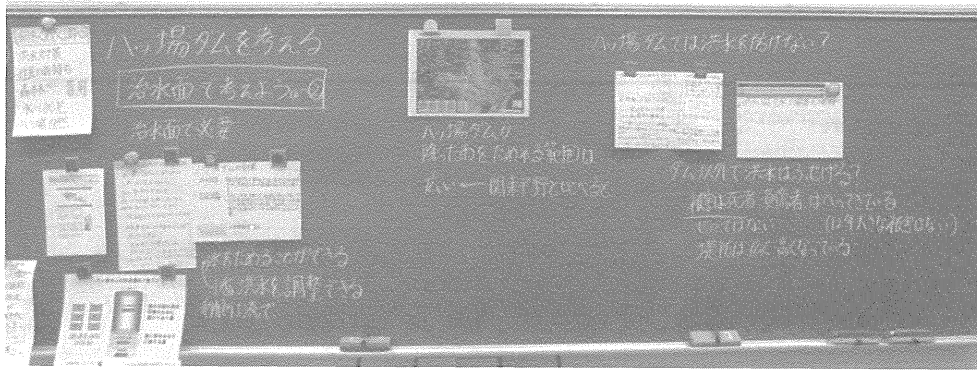
R児…やっぱりダムは必要。昔はダムがなくて洪水被害が防げなかったけれど、堤防もできて、今は死者負傷者も減ってきて被害がだんだん減ってきている。ダムができれば洪水被害も少なくなるかもしれないから。

M児…死者も減ってきているし、カスリーン台風の頃より家も強くなって壊れる家も少なくなっているし、堤防も高くなっているの、そこまで必要ないかなと思った。



利根川水系の戦後の主な洪水被害

| | 床上浸水 | 床下浸水 | 家屋全半壊 | 死者 | 負傷者 | 被害農地(ha) |
|----------------------|----------------|-------|-------|------|------|----------|
| 昭和22年9月 (カスリーン台風) | 浸水戸数 303160 | | 31381 | 1100 | 2420 | 176789 |
| 昭和24年9月 (キティ台風) | 4047 | 2571 | 1683 | 10 | 118 | データなし |
| 昭和56年8月 (台風15号) | 269 | 646 | 3 | 0 | 0 | 1568 |
| 昭和57年8月 (台風10号) | 137 | 1478 | 3 | 0 | 0 | 234 |
| 昭和57年9月 (台風18号) | 7242 | 27649 | 3 | 0 | 0 | 4273 |
| 平成10年9月 (台風5号) | 98 | 1176 | 2 | 0 | 0 | 623 |
| 平成13年8月 (台風15号) | 26 | 114 | 0 | 0 | 0 | 216 |



※子どもたちの振り返りの中に、被害がゼロではないので、そのためにダムが必要という意見があった。東日本大震災で自明の通り、自然災害はハード面では完全に防ぐことは不可能であり、自分の身は自分で守ることが重要である。次時ではその点を扱いたい。その視点が加わると子どもたちの思考はどう変容していくかを見ていきたい。

第8時（10月9日）

○治水面からハッ場ダムの建設の是非について考える②

前時や教科書を読んでわかったこと（自然災害を防ぐという観点）を出し合い話し合う。

- 堤防が進化しているからダムは必要ないと思うし、ここ数年死者は出ていない。
- 自然災害はゼロにはできないけど、もしダムができれば、被害がより少なくなるかもしれない。
- 自然災害は防げないので、自ら命を守ることが大切だと思う。
- ダムを造ってもあまり意味がないかもしれない。

〈子どもたちの授業後の振り返りより〉

R児…自然災害は私たちが防ぐことができない。もし、今後とても大きな台風などが来たとき自分の身は自分で守るの際に、ダムがあれば私たちが避難する際、少しは手助けになるかもしれないからダムは必要。

M児…治水面は利水面と違って自然の災害なので、一人一人が備えなきゃいけないと思います。しかもダムはあふれると逆に災害をひどくしてしまうから他の対策の方がよいのではないかと思った。

※自然災害を守るためには、自分の身は自分でまもることが理解できていた。ダム造り賛成派は、さらに被害を少なくするためにダムを造るという主張になっている。

第9時（10月10日）

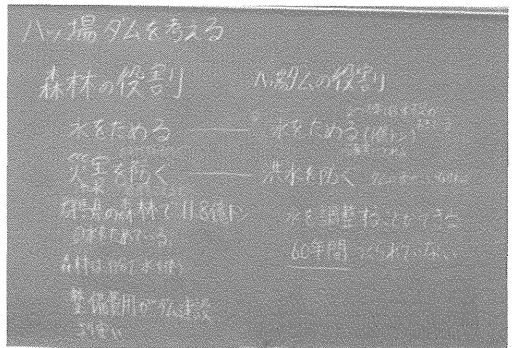
○森林の役割からハッ場ダムの建設の是非について考える①

教科書・資料集から調べてきたことを生活班でまとめ、それを踏まえて建設の是非を話し合う。

- 木は土砂災害を防いでくれる
- 動物のすみかとなる
- 植林から伐採までに40年以上もかかる。

〈子どもたちの授業後の振り返りより〉

R児…森林は人々にとっても、動物たちにとっても、とても大切な物なので森林の面でも中間です。ダムは災害から守る手助けになるけれど、森林も日頃から災害を減らしています。森林の面で考えれば、賛成と反対の中間です。



M児…森林は私たちの道具を造っているだけでなく自然災害を防ぐことがわかった。ダムを造るとそんな自然を壊してしまうから、他の手はないのだろうか。

※児童の反応や振り返りでは、「森林にはいろんな役割はあるが、森林は100年に1回の災害は防げない。」という意見がまだまだ多数をしめていたので、次時も授業者が、反対意見に目を向けることができるような資料を用意しようとした。

第10時（10月11日）

○森林の役割からハッ場ダムの建設の是非について考える②

◇緑のダムの役割，人口のダムの寿命（要旨：ダムの老朽化の際には費用がかかる。東日本大震災で藤沼ダムが決壊した。）

◇森林とダムの貯水量を比較（要旨：ダム以上に森林は水を蓄え，整備費用もダム建設より安い。）
（子どもたちの授業後の振り返りより）

R児…森林もダムも大きな災害はさすがに守れないときがある。自然林は私たちが植えることができるからダムを造ったほうがよい。

M児…森林だってダムと同じくらい，もしかすればそれ以上の価値があるんだと思った。

| | 貯水量 | ダムをつくるのにかかる費用 ／森林整備にかかる費用 |
|----------------------------------|--------------------|------------------------------|
| ハッ場ダムを造ることなく なる森林 (約169ha) | 130万トン | |
| 群馬県の森林 (約42万5000ha) | 11.8億トン | |
| 全国の森林(約2500万ha) | 444億トン～ 1894億トン | |
| 全国の人工林(約1000万ha) | | 2250億円 |
| ハッ場ダム | 1億トン | 4600億円 |
| 全国のダム | 202億トン | |

読売新聞、日本森林技術協会、民主党「緑のダム構想」より

戦後、日本の森林整備が進み、1960年代後半以降には、被害が人の命にかかわるような大水害はほとんど発生なくなりました。今は日本の森林は整備され、河川改修も進んでいるので、これ以上ダムを建設する必要はありません。

出典：『なぜダムはいらないのか』藤原信 2003年

人工のダムの寿命は数十年、長くても100年と言われている。コンクリートが劣化すれば補修費がかさむ。破がたまれば、ダムとしての機能を失う。破の除去にも多額の費用がかかる。機能を失ったダムはかえって洪水の原因となり、崩壊すれば大災害を引き起こす。（※東日本大震災で福島県の葛田ダムこわれ、150万リットルが流出。死者7人、行方不明者1人、流失もしくは全壊した家屋19棟、床上床下浸水家屋55棟という被害を出した。）

100年後、機能を失ったダムの撤去費用の負担まで考えると、可能な限り「緑のダム」を活用すべきであり、安易に人工ダムに頼るべきではない。（荒瀬ダム（1955年に建設、貯水量1000万リットル）が2012年に撤去作業が始まった。事業費は88億円、期間は6年。）

出典：『なぜダムはいらないのか』藤原信 2003年

※前半に、子どもたちがハッ場ダム建設に対してどう思っているか全体で話し合っていたので、資料を読み取る時間が少なくなりました。また、子どもたちは今までの資料をしっかりと読み取れていないようにも感じたので、復習をしつつ、第二次価値判断意思決定をさせようと考えた。

第11時（10月15日）

○今まで学習してきたこと（森林の役割，治水面，利水面）について復習し，三つの観点でハッ場ダムは建設すべきかすべきでないかを考える。（第二次価値判断）

R児…自然災害はどれだけ大きくて強いものが来てもしょうがない。そこでダムがあったら，今の影響を少しでも抑えることができる。自然の役割も大切だけど，それがもしも倒れたりしてしまったり逆に大きな被害が出る。利水面でもダムができたら，私たちの生活にもゆとりが持てる。過去の子を考えると今後どうなるかわからない。治水面も洪水被害は年々減っているけど，ダムがあった方がよい。

M児…森林面では，森林は意外といろんな役割があり，案外たくさん水をためているからわざわざ壊して造る必要はないと思った。利水面では治水のためにたくさんの場所を使い飲み水にはそんなに使えないからいらなかった。治水面では自然の災害だから微妙だけど，もっと他の策もあると思った。ダムではなくてもいいと思った。

第12時 (10月17日)

○住民の方の気持ちからハッ場ダムの建設の是非について考える。

(子どもたちの授業後の振り返りより)

R児…豊田さんのお話を聞いて反対になりました。国は私たちのためにダムを造ろうとする気持ちはとてもありがたいけれど、住民の気持ちもとらえずに造るのは、やっぱりよくないと思う。もし、まだ作る話のはっきりときまっていなかったら絶対に反対したい。

M児…国の扱いがちょっとひどいと思った。生活を保障するならと住人は賛成したのに、お金が逆に大変になっているのが現状で、ポンプをくみ上げるお金もかかるし、やっぱりやめた方がいいと思う。

※子どもたちが、授業者の予想以上に住民の気持ちに共感していた。ダム造りに疑問を持つ子も増えた。ずっとダム造りに賛成のR児は、反対になっている。A児は、住民のダムができて落ち着きたいという気持ちに寄り添い賛成ながらも、納得がいかない様子がうかがえる。S児は住民の気持ちに共感しながらも、反対の気持ちがより強くなっている。授業者としては、住民の気持ちに寄り添うなら、ダム賛成派に移る子がとても多いと思っていた。かなりの想定外だった。

川原湯温泉(ダムができるとしずむ)で旅館を営んでいた豊田さんのお話



国からダムの建設の話があった時は、町の様子はどうだったんですか？
ふるさとが無くなる、大事な思い出がなくなる、今のくらしはどうなるんだと、みんなが大反対でした。国の関係者が来るとバリケードを築いて、追い返したりしていました。

反対から、どうして賛成になったんですか？

1965年からずっと反対運動をやってきて、仕事が終わり夜遅くまで、対策会議をやったり、休日返上で会議に参加したり…正直住民はつかれたんですね。それなら、ダムをつくるかわりに、我々の生活をしっかり保障してくれ、ということと、町として賛成になりました。

移転費用は、たくさんもらえるんですか？

移転補助金というのがあるのですが、新しい家を作ったら、なくなりました。しかも、それにも税金がかかってくるんです。

2009年にダム建設中止になったときはどうでしたか？

2015年にダムができることを想定して、旅館の設備を新しくしたりなど、生活設計をしていたので、この先どうなるか、とても不安になりました。それで、旅館をたむこにしました。

でも、旅館の営業できるようにしてくれるんじゃないですか？

温泉を上に引く設備は作ってくれました。しかし、昔は、温泉利用料は月5200円だったのが、電動ポンプの電気代使用料などで月30万~40万くらいかかるんです。これから観光客が来てるかも分からないですし…

今、豊田さんや住民の方はどうお気持ちですか。

早くダムが完成してほしい。決着をつけてほしいと私は、思っています。私の住む長野県岡谷市の町議会では、ダムを作るという意見に決まっています。

ダムしずむところから、どのくらい移転がすすんでいますか？

95%くらいは、上の代替地へ、移転が完了しています。反対して、まだ移転もしておられないところもあるようです。

ダムのまわりを作り始めて変わったことはありますか？

昔、よく見たサンショウウオが見れなくなりました。工事のダンプが走り回っています。微道を分断して道路を作った所もあるので、行き場をなくしたイノシシやカモシカが出てくることもあります。町の人口は1万人から6千人にへりました。友達の中で引越した人もいます。お墓を掘り起こして、新しい道路を作ることもあります。本当にいろんな苦労や思いをしています。それが少しでも分かってくれればうれしいです。

第13時 (10月18日)

○ハッ場ダムの工事費用からハッ場ダムの建設の是非について考える。

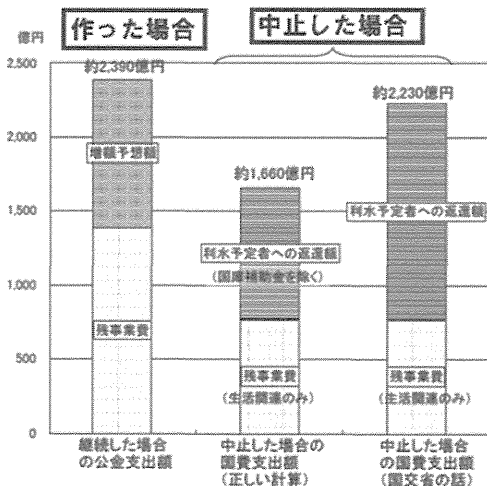
◇建設の全体の予算と25年度までの使用予定金額、ダムを造った場合と中止にした場合の金額の比較

- 今まで使った金額が、無駄になると思う。
- 道路など、住民の生活の役に立っているものもあるので、無駄ではないと思う。
- これから、どんどん予算が高くなっていく可能性があると思う。

(子どもたちの授業後の振り返りより)

R児…ダムは造らない方がよい。理由はダムを造ると造らないのでは130億円の差がある。国はたくさん借金があるので、借金のことを考えると、造らない方がよい。

M児…細かいお金を入ると8800億円で中止にした方が安い感じもするのですが…。でも今のお金を無駄にはしたくない。微妙です。でも、今とめて残りのお金を借金に使ってもいいと思います。



| 誰が支払うか | ハッ場ダム建設事業 | 住民の生活保障など | 合計 |
|---------|-----------|-----------|--------|
| 全体 | 4600億円 | 1246億円 | 5846億円 |
| 国 | 2565億円 | 504億円 | 3069億円 |
| 一部五県 | 2035億円 | 742億円 | 2777億円 |
| そのうち東京都 | 637億円 | 215億円 | 852億円 |

※ハッ場ダム建設費用の6割は、群馬・埼玉・千葉・茨城・千葉・東京で分けて支払う。→もし中止になったら??

ちなみに、平成25年度までで、5846億円のうち、4627億円の使用予定

※R児は、利水面、治水面で反対側に有利な資料を読み取っても、かたくなに賛成の立場を主張していたのに、この資料は、反対側の視点から読み取り、反対を主張している。もし、住民の方の話を聞く前だったら、判断はどのように変わっていたのだろうか。また、「中止にするとお金が無駄になる」と「道路や橋はできているのだから無駄とは言えない」という意見の対立は、どうすれば折り合うことができるのだろうか。結局は個人の価値判断になってしまうのだろうか。

サunkコスト（埋没費用）…すでに支払ってしまっって回収不能な費用のこと。ダム建設をそのまま進めて完成させても、中止してもすでにかかった費用が戻ってこないことにはかわらない。だから、事業を続けるか中止するか判断するときには、いくら巨額でもサunkコストを考慮に入れてはいけないというのが経済学の考え方。

〈参考：日本経済新聞2014年8月5日より〉

第14時（10月18日）

- ハツ場ダムの建設予定地の自然環境からハツ場ダムの建設の是非について考える。
- ◇授業者が現地ですてきた写真、伐採された森林の行方（子どもたちが作成）
- 今まで調べてきたことをワークシートに観点別（利水面・治水面・森林の役割・住民の気持ち・工事費用・自然環境）にまとめる。

| ハツ場ダムは建設すべきか建設すべきでないか | | | | | |
|---|----|------------|------------|----|---|
| 調べた視点 | 賛成 | どちらかといえば賛成 | どちらかといえば反対 | 反対 | その理由 |
| 利水面 | ● | | | | ダムは川の水をそのまま蓄えるが森林からは直接水をとれないし、乾いているときは逆に水を吸ってしまうから。 |
| 治水面 | | ● | | | ダムは土砂災害が起きて止めるが、森林は災害が起きることを防いでくれる。でも森林ごとなくなってしまう場合もあるから。 |
| 森林の役割 | | ● | | | 森林があれば生き物の巣などになるが、ダムはコンクリートなどにかためてあるので、火災などが起きないし、丈夫だから。 |
| 住民の気持ち | | | | ● | 住民は感謝金をもらえるが、そのお金は新しい家を買えばなくなってしまうので、ハツ場ダムはない方がいい。 |
| 工事費用 | | ● | | | ここまで作ってしまったし、中止にしてもとどおりになるかもわからないから。 |
| 自然環境 | | | | ● | 生物は貴重なものを多くつせばいいかもしれないが、環境が変われば弱ってしまうから |
| 総合的に考えて | | ● | | | 個別に自分の考えを下に書く。 |
| まとめ | | | | | |
| 森林があれば、水を蓄えたり調節したりできるが、水がほしいときにいせない場合もあるし、火災があれば終わるので、ダムを造った方がいいと思う。でもまだ中止するお金がまだそんなに高くなく住民が反対し続けるならやめた方がいいと思う。 | | | | | |

〈I児が書いたワークシートより〉

第15時（10月19日）第10回価値判断力・意思決定力を育む授業研究会公開授業 於：筑波大学附属小学校

(1) ねらい

今まで調べてきたことをもとに、他者の意見を聞きながら多面的に考え、なるべく多くの人が幸せになれるためにはどうすればいいかを考える。

(2) 予想される展開

| 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|--|
| <p>○ハツ場ダム建設は建設すべきか、すべきでないか、自分の考えを、黒板に表す。</p> <p>○ハツ場ダムを建設すべきかすべきでないか前時で作ったワークシートを元に、自分の考えを発表し、交流し合う。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダムは洪水を防ぐ役割があるから、建設したほうがよい。 ・河川改修や都市型放水路などができ、今まで洪水の被害が減ってきている。ダムは必要ない。防災意識を高めることが大事である。 ・東京都の水の使用量は年々減っていて、水は必要ない。 ・ハツ場ダムがあれば、過去の渇水状況を大幅に改善できた。 <p>○どうすれば違う立場の子どもが納得するか考える。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「利水面では必要ないと思いますが、治水面では必要だと思っているので、どちらかと言えば賛成」→森林整備に力を入れて、森の治水力を高める。 <p>→河川改修など、ダム以外で整備を進めていく。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ネームマグネットを児童1人1人に持たせ、「賛成」「どちらかと言えば賛成」「どちらかと言えば反対」「反対」に意思表示させ、学級全体の意見を可視化する。 ・今まで考えてきた「利水面」「治水面」「住民の気落ち」「工事費用」「自然環境」など様々な立場から意見が出るようにする。 ・みんなが幸せになれるためにはどうすればいいかを考えるために、「どちらかと言えば賛成or反対」の立場などの子どもに目を向ける。その理由を言わせ、納得できるような条件を考えていく。例えば、「建設したほうがよいと思っていますが、自然環境が壊れるので、どちらかと言えば賛成」というような子どももいると予想できる。どうすれば、お互い歩みよれるか、条件を考える。 |

- ・今後も、税金が多く投入されると思うので、ダムは建設すべきでないと思いますが、住民の「造ってほしい」という声があるので、その分どちらかと言えば反対です。
 - 税金を少なからず国として努力してもらう。
 - 中止にして、住民が納得するような保障をしていく。
 - 交流を通して、最終的な判断をワークシートに書き込み、今日新しく学んだことを、振り返りとして書く。
- ・どうすれば、お互い納得ができるか、歩み寄れるかという点を中心に、まとめとして書かせる。



第16時 (10月21日)

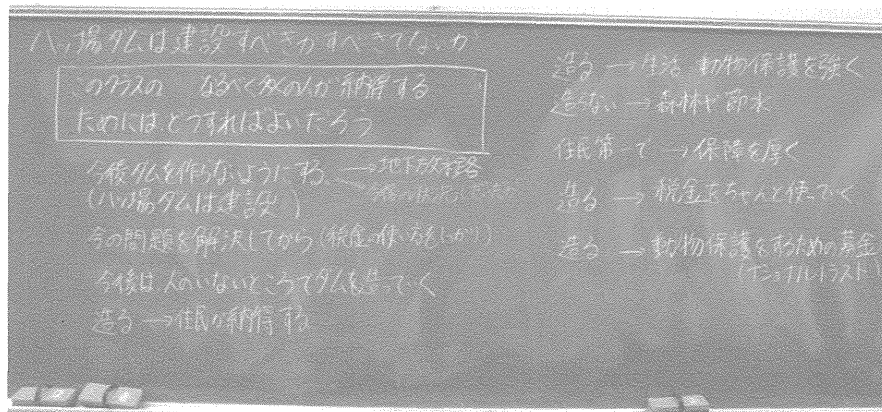
○5年3組のなるべく多くのみんなが納得できるような案を考える。(前回、「みんなが幸せになるためには」という題に対して、子どもたちから疑問が上がったので、みんなでこの題を作り出した。)

- ハッ場ダムは建設して、今後ダムを造らないようにする。(堤防改修や地下放水路など住民に迷惑がからないような設備で対応していく。また、今後の状況をくわしく調べてから判断する。)
- 住民の保障をしっかりとる。●東日本大震災など、様々な問題を解決してから、ダムを造る(適正な税金の使い方)●動物の保護をしっかりとる。(ナショナルトラスト(※本来の意味とは違うが)のように、動物を保護するために募金など、みんなができることをする)●森林整備をし、節水し、ダムは造らない。●今後は住民がいないところでダムを造る。

〈子どもたちの授業後の振り返りより〉

R児…欠席

M児…どうすれば納得できるかは難しいです。でも、これ以上絶対ダムを造らず、住民の保障をしっかりとってくれれば造ってもいいかなと思いました。でも、それをしないなら造る必要ないと思います。



※子どもたちなりに案を考え、〇〇するなら、造ってもよいという考えが出てきた。どれも妥当性のあるものだが、結局のところ、納得するかしらないかは個人の価値判断によると感じた。それでも、クラスの中で「ハッ場ダムは建設して、できることをやっつけていこう」といったところで折り合いがみつつかあるように授業者は感じた。

第17・18時（10月28日，10月31日）

○「ハッ場ダムは建設すべきか建設すべきでないか」「どうすれば，クラスのなるべく多くのみんなが納得いく結論を出せるか」という課題に対して，意見文を書く。

ある児童の『①建設すべきか②すべきでないか③なるべく多くの人が納得するために』の意見文

① ダムは川の水をせき止め，そこから水をとるが，森林は，乾いているときは，余計に水をすってしまうことがある。しかも洪水の時に木はそのまま崩れてしまうが，ダムはそんなにすぐにはこわれないから。住民が反対しているから建設しない方がよいという人がいるけれど，住民のほとんどはもう引っ越ししているから，今建設はしないとなったら，逆に混乱してしまうと思う。工事費用も税金を使っているから今更やめるなんて許せないだろうし，ここまで建設しているのだから，続けるべきだと思う。

② 建設すべきでない言っている人はほとんどが自然がなくなるからなどの意見なので，募金をして保護をした方がいい。ナショナルトラストと言って募金でその地域を買い取りその自然を守った例もある。

第19時（11月8日）

○前時に書いたものをもとに，クラスで意見交流をする。

教室を自由に行き来し，自分の意見文を相互に交換しあいながら，お互いの意見文を読み合い，共感するところ，意見が違うところ，勉強になったところなどを書き込む。以後，それを繰り返した。

R児…二つめの意見文はどれも納得する物ばかりで堤防をもっと活用するなどの意見があった。反対派の人は，住民の保障する，今の問題を解決したらOKといった意見があった。もっと考えれば，クラスみんなが納得した意見が出せた気がしました。

M児…欠席

IV 考 察

1. 合意形成をめぐる

(1) 合意に向けて考えを提案している姿

ある児童は19時の「どうすれば，クラスのなるべく多くのみんなが納得いく結論を出せるか」という課題に対して，以下のように書いている。

ハッ場ダムを造るとしたら，動物を保護する保護区というがあるのでそこに動物たちを保護区に入れるお金の募金をしてほしいと思います。自然環境の面ですべて反対していて動物の命がかわいそうだったからです。僕が，その動物だったら工事のために命を落とすのは納得がいけないからです。それならできるだけ動物を守ってほしいと思いました。ダムを造るための条件で生活を保障するのが絶対なのに，その条件を満たさないのはだめだと思います。人口も四千人もへって本当にかわいそうだと思います。もうお墓がどれだけ家族にとって大事か自分自身で実感したのでお墓を掘り起こして道路を造るというのは間違っていると思います。確かに，ダムを造るにあたって道路は必要だと思いますが，もし僕がこの住民の中の一人だったら納得はしないと思います。「動物保護を強くしてできるだけ動物の命を守ってあげること」「住民の保障をしっかりと，税金の無駄遣いはやめること」「お墓があるところではなく小規模なところで道路を作ってほしいこと」あとのことを考えると治水面利水面ではハッ場ダムは必要だと思うので，これだけ直せば，僕は造ってもよいと思いました。

何に合意ができて何に合意ができないかを示しつつ，そのあとにどうすればいいかを提案している。ダム建設賛成派の意見として，反対の立場へ提案し，合意形成していこうとする姿ととれる。

(2) 合意形成過程そのものを楽しむ姿

19時の他者との交流を終えたあと、R児が「二つめの意見文はどれも納得するものばかりで堤防をもっと活用するなどの意見があった。反対派の人は、住民の保障する、今の問題を解決したらOKといった意見があった。もっと考えれば、クラスみんなが納得した意見が出せた気がしました。」と書いている。

本授業では、政治的リテラシーivの「なるべく多くの人が幸せになれる条件を考えて決定する」を意識して授業を構成したが、R児の姿から、妥協や調整に請求しているようには見えず、「他者性を解消して楽しさを喜ぶ合意」のみでなく「他者性を深め違いを楽しむ合意」を追求していると言えるのではないだろうか。

さらに、なかなか歩み寄れない合意形成しにくい課題に対して、「なるべく多くの人が納得いく結論を考え、語り合うこと」が、解決策の一つなり得るのではないかとR児は示唆しているように思う。

(3) 合意を中断させる姿—非-合意について

第15時で、授業者が住民の方から伺ったものを資料として提示には、仕事が終わった後や休日返上をして対策会議をしたり、反対運動を繰り返すことで、住民が疲弊していったということ、移転費用は、新しい家を建てたらなくなってしまったということ、2009年にダムが建設中止になったときには、今後の生活設計に見通しがたたなくなり、とても不安になったといった内容が書かれている。

ずっとダム建設に賛成だったR児は、授業後の振り返りに「豊田さんのお話を聞いて反対になりました。国は私たちのためにダムを造ろうとする気持ちはとてもありがたいけれど、住民の気持ちもとらえずに造るのは、やっぱりよくないと思う。もし、まだダムを造るのをとめられるなら絶対に反対したい。」と書いている。

授業者は民主党政権が八ッ場ダム建設を中止にしたとき、待ち望んでいた住民がいたのではないかと思っていた。しかし、住民のほとんどは、愕然とし、建設再開を求め、署名運動も行われたという。住民の感情に寄り添うなら、ダムを建設すべきという意見を持つ子が多数しめるのではないかと思っていた。

R児は、当初から賛成の立場をとり、こだわって主張してきたので、かなりの想定外だった。住民の気持ちに寄り添い、住民との合意を形成するならば、ダムを建設することに賛成と主張するべきだが、反対の立場を取っている。子どもたちの真意を第15時の授業記録から探してみたい。

KH児…私は全体的には（八ッ場ダム建設）反対なのですが、ここの視点（住民の気持ち）だけは「どちらかと言えば賛成」なんです。それは、地元の人の声について調べたときに、「ダムを造るのはやめてほしいけど、中止になってもふるさとは戻ってこない。前に進むしかない。」とか「新しい再建策を示さずにいきなり中止にするなんて問答無用で建設を決めたときと同じ。」とかという声があって、住民の方を早く安心させたほうが良いと思って、それで造ったほうが良いと思ったんですけど、住民もいやいや移転してもいいという感じで、反対運動に疲れたということだったので、「どちらかと言えば賛成」です。

ST児…95%移転が完了しているところから、いきなり工事をやめますというのもどうかと思いますし、そこまできてやめる理由がよく分からないですけど、（ダムを造るのは）住民の気持ちもよく考えた上での行動だと思うのですが…。住民は早く決着してほしいと言っていました、それもいやいやのような気もするし、中止にする理由もないと思うから、賛成と反対を僕はさまよっています。造ってほしいということは確かでも長年やってるし疲れているという声も聞くと、さまよいます。

OT児…川原湯温泉の豊田さんの話の中に「移転感謝金がもらえるのですが、新しい家を造ったらなくなりました」という意見があったのですが、自分たちの生活を生活を保障するという条件にダム造りに賛成したのに、家を造ったら移転感謝金がすぐになくなり、それにも税金がかかっちゃうから、しっかり保障できていません。

ここの授業記録の抜粋から、授業者が納得していない「住民は造ってほしいと言っているのに、なぜ反対するのか」という答えが見える。下線部から、「このままの状態では本当にいいのか」「国はちゃんと保障できていないじゃないか」という不利益を一部の人に押しつけている状態を目の当たりにし、そもそも合意とはなんなのか、そもそも合意すべきなのかといった合意そのものを問い直しているのではないか。ここから、合意形成や利害調整とは異なる政治的な契機、ランシエールにならうならば、それは「非合意」と言うべきものが見てとれる。

2. 授業で取り上げるべき観点について

この学習では「利水面」「治水」「森林の役割」「住民の気持ち」「費用」「森林の役割」と言った観点を取り上げたが、それ以外にも、「ダムができれば観光客が増える」といった観光という観点や「八ッ場ダムができれば、発電量は増える。」といった水力発電といった観点もある。授業時数の問題もあるし、どの観点を扱うべきなのか、できるだけ多くの観点を幅広く扱う事に重点を置いた方がよいのか、授業実践から考えてみたい。

第7時では、治水から調べる際に利根川水系の主な洪水被害をまとめたものを子どもたちに提示し、調べさせた後、話し合う時間を持った。授業者は、子どもたちは「治水で大きな災害が出ていないから、ダムは必要ない」という判断をするのではないかと予想していた。子どもたちの振り返りを見ると、「カスリーン台風の時は堤防がなく、ダムもなく、ひどい結果になってしまった。しかし、堤防を造ることによって年々被害は少なくなってきたので、ダムを造らなくても堤防だけよいと思った。」と書いている子もいた。逆に「確かにキティ台風から死者は一人も出ていない。でも床下浸水は多くなったりしている。洪水の水をためて何かあったときにはいかせるダムがあった方がよいと思うし、もっと被害が減って台風があっても安心できるように造ったほうがよい。」という意見もあった。

洪水の被害が減ってきているという事実（川幅を広く、堤防を高くという河川改修を行ってきたという事実を示した上で）を、「被害が減ってきているので、八ッ場ダムは必要ない。」と判断する子もいれば「被害が減ってきているけど、ゼロではないので、八ッ場ダムは必要である。」と判断する子もいる。

日々の日常で、すべての情報を完全に知った上で意思決定をしていることはほとんどない。暫定的な知識で、その時点での最善と考えられるもので意思決定していることも少なくない。仮に考えるならば、網羅的に観点を扱うよりも、一人ひとりがそれぞれの論点に対して別様の価値づけを行い、価値と価値が複雑に対立し合っているということに気づけるような観点を優先して抽出していくべきなのではないだろうか。

3. 論争的問題の時事性について

八ッ場ダムの本体工事施工業者が2014年8月に決定した。2014年11月14日の産経新聞によると建設予定地にあるJR吾妻線の線路付け替え後の線路撤去に着手しており、事実上の本体工事が行われたこととなっている。自民党政権となり、八ッ場ダムは2009年の建設中止から建設続行に方向転換されている。そのため、時事問題としては、ある程度政治的決着がついている問題ととらえることも出来る。

しかし、論争的問題を扱う際その問題の「時事性」よりも、それが複雑に関わりあう複数の論点を持っており、解決が困難な問題であることを優先すべきなのではないか。なぜなら、そうした要素こそが、子どもが論争的問題において合意を形成することの難しさに気づき、「何をもって合意とするのか」を問い直すきっかけとなるからである。

4. バランスアプローチを再考する

八ッ場ダムを見学した際に、関東工事事務所の方のお話を聞いたせいか、クラスの中で3分の2が八ッ場ダム建設賛成の立場をとっていた。当然、子どもたち自身が調べた資料の中にも、ダム建設賛成の資料が多く集まっていた。さらに、話し合いの際には、主張が強い賛成派の男児が多かった。

建設賛成の立場をとる子どもたちにゆさぶりをかけようとするため、第10時で扱ったような、「ダムにも寿命がある。」「たまった砂を取り除く費用がかかる。」「崩壊した事例がある。」「機能を失ったダムは

事業費が多くかかる」などのダムのデメリットとなる資料を提示した。しかし、「先生は反対派なの？」という質問がかえってきた。クラスの中の賛成反対の人数の均衡を保つために、あえて、反対派の資料も提示してきたが、子どもたち自身の公正な判断に影響を与えてしまったのかもしれない。授業者が子どもたちの様子を窺いながら資料提示をしなければならないことの重要性を感じた。

V 今後に向けて

合意形成過程に「合意に向けて考えを提案している姿」「合意形成過程そのものを楽しむ姿」「合意を中断させる姿—非—合意について」という3つの様相が見られた。これらがどのようにして関わり合意形成されていくのか。また、子どもたちと考えていくにあたって、どういう場面でそれぞれを扱ってあげればよいかということも含めてこれから検証していきたい。

また、扱うべき観点として、複数の読み取りができる資料というキーワードが出てきた。子どもたちにどんな資料を提示すべきかということは、いつも悩んでいることだが、今回の視点の妥当性をさらに検討しつつ、他の方法もないか、考えていきたい。

そして、今回はバランスアプローチを意識したが、クリックは、教師が中立的な立場をとる「チェアマンアプローチ (Neutral Chairman)」、明示的に自分の意見を言う「コミットメントアプローチ (Stated Commitment approach)」を提唱している。それぞれを単に意識するだけでは、授業としてうまくいかない。授業者も子どもたちと一緒に議論する一員であり、子どもたちとどう接していくかということは引き続き意識していきたい。

参考文献

授業作りに関かわる文献

- 中島政希 (2012) 『崩壊マニフェスト—八ッ場ダムと民主党の凋落—』平凡社
 藤原信 (2003) 『なぜダムはいらないのか』緑風出版
 八ッ場あしたの会HP <http://yamba-net.org/>
 八ッ場ダム工事事務所HP <http://www.ktr.mlit.go.jp/yanba/>

社会科や市民性資質に関わる文献

- 岩坂尚史 (2014) 「実践報告「八ッ場ダムは建設すべきか建設すべきでないか考える」第13回価値判断力・意思決定力を育成する社会科授業研究会当日配布資料」
 岩坂尚史・村松灯・田中智輝 (2014) 「「創造的調停」に向けた論争的問題の導入—お茶小における「八ッ場ダム」実践を手がかりに」日本社会科教育学会第64回全国研究大会当日配布資料
 岡田泰孝 (1998) 「人の生き方に学び、自ら社会事象にかかわろうとする子どもを育てる社会科学習—第6学年の4実践を通して」『お茶の水女子大学附属小学校研究紀要第8集』
 岡田泰孝 (2004) 「研究ノート 提案や意思決定の学びを市民的資質につなげる—第6学年「日本の国際協力」の実践を通して—」『お茶の水女子大学附属小学校研究紀要第12集』
 お茶の水女子大学附属小学校 (2013) 『第75回教育実際指導研究会 発表要項』NPO法人お茶の水児童教育研究会
 お茶の水女子大学附属小学校 (2014) 『第76回教育実際指導研究会 発表要項』NPO法人お茶の水児童教育研究会
 小玉重夫 (2011) 「「クリック・レポート」とイギリスのシティズンシップ教育について」総務省常時啓発事業のあり方等研究会2011年10月26日提供資料
 佐藤孔美 (2010) 「「社会を見る3つの目」を育てる「市民」の学習」『お茶の水女子大学附属小学校研究紀要第17集』
 志田絵里子・山口恭平・宮地和樹・村松灯・田中智輝・鈴木康弘・永井領児 (2014) 「シティズンシップ教育における論争的問題の検討—目的・選択基準・方法・効果の観点から—」『平成25年度学校教育高

度化センタープロジェクト報告書』

関口正司監訳（2011）『シティズンシップ教育論－政治哲学と市民』法政大学出版局

高橋良平・小林庸平・菅源太郎・特定非営利法人Rights編著（2008）『18歳が政治を変える！ユース・デモクラシーとポリティカル・リテラシーの構築』現代人文社

水山光春（2003）「「合意形成」の視点を取り入れた社会科意思決定学習」『社会科研究』第58号

村松灯・田中智輝（2014）「政治的リテラシーの重層性－J.ランシエールの「政治」と「ポリス」に着目して－」日本教育学会第73回大会当日配布資料

吉村功太郎（1996）「合意形成能力を育成をめざす社会科授業」『社会科研究』第45号

附記

本実践，本稿を書く途上で，たくさんの方々のご協力を賜った。

実際に現地を子どもたちと一緒に見学させてもらう際には，関東工事事務所の植木さんに全て手配をしていただいた。ハッ場ダム建設予定地である群馬県長野原町の旅館を営んでいる樋田さんには，貴重なお話や，当時のニュースの映像を見せ頂いた。旅館を営んでいた豊田さんには，度重なる取材にも快く対応していただいた。授業中にテレビ電話で子どもたちの質問に答えて下さった。

小玉重夫先生には，公開授業の指導助言者として多くの知見を賜った。東京大学大学院の田中智輝様，村松灯様には，授業分析して頂きそれをもとに長時間を話し合いを重ね，多くの助言をいただいた。本実践はもちろん，いつも支えて下さる，本稿社会科部の佐藤孔美様，岡田泰孝様には，本当に感謝している。他にもたくさんの先生方に御助言を頂いた。改めて感謝の気持ちを表したい。